

# 「世界遺産！！ 百舌鳥古墳群を巡って古代堺を想う」

大阪おもしろ案内人

百舌鳥・古市古墳群が2019年7月6日に正式に世界文化遺産に登録された。大阪府で初めて世界遺産登録されました。全体で45件40基、百舌鳥古墳群に限っては21件23基の多様な形、規模の古墳としてその姿、形によりその地位が決まりその時代の文化を代表するものとしての文化遺産である。

日本の世界遺産は23件。文化遺産は19件、自然遺産は4件。

## 世界遺産になった評価

「4世紀後半～5世紀後半にかけ広域の豪族による連合政権が初期国家を形成してゆく過程を示している」

「四種の墳形と規模に差異がある古墳群からは被葬者の身分差が読み取れる」

「古墳時代は中国の律令制を採り入れる前の日本固有の文化である」

「古墳の形状は後の時代の皇族の墓形に受け継がれており埋葬の伝統を証明している」

「土製建造物の極めて優れた技術があったことを示している」

## 陵墓

陵とは天皇、皇后、太皇太后 墓は皇族関係者

## 陪塚（ばいちょう）

陪塚とも書く。古墳の一種。大きな古墳のそばにあたかもそれに従うようにつくられている小さい古墳をさす。しかし、陪塚と呼ぶ場合には、規模、内容などの点で主体となる古墳となんらかの関係がなければならず、ただ位置が近いというだけでは判断できない場合もある。これらの陪塚には、死者を葬ったと思われるもののほかに、器物だけを埋納したと思われるものもある。

## 長塚（ながつか）古墳 ※世界遺産

前方後円墳。墳丘長は106.4m、前方部の高さは10.6mである。埋葬施設は竪穴式石室(たてあなしきせきしつ)であることが、地中レーダー探査の成果から明らかになっている。墳丘と濠からは円筒埴輪や形象埴輪がみつまっている。築造時期は5世紀後半である。

## 収塚（おさめづか）古墳 ※世界遺産

仁徳天皇陵古墳の南東側、外濠の近くに位置する帆立貝形墳。仁徳天皇陵古墳の付属墳と考えられる。墳丘長は57.7mに復元されており、後円部の高さは4.2mである。墳丘に造られた平坦面には、小形の円筒埴輪が並べられ、濠からも円筒埴輪や須恵器がみつまっている。築造時期は5世紀前半である。

## 孫太夫山古墳 ※世界遺産

仁徳天皇陵古墳に南接する全長約56mの前方部が短い帆立見形の前方後円墳。

## 仁徳天皇古墳（大山古墳） ※世界遺産

我が国最大の前方後円墳であり全長：846m 墳丘の全長：486m 後円部の直径：249m 後円部の高さ35m 前方部の幅：305m 前方部の高さ：33m

第16代仁徳天皇の墓として、北側の反正天皇陵、南側の履中居中天皇陵とともに百舌鳥耳原三陵といわれている。前方部を南に向けた墳丘は全長486m、その広さは、甲子園球場の12倍、東京ドームの14倍になります。エジプトのクフ王のピラミッド、中国の秦の始皇帝陵とともに、世界の三大墳墓の一つとされています。天皇が亡くなる20年前から造営が始まり、1日最大2000人が従事して述べ680万7000人を動員して15年8か月を要したといわれている。

なお、石棺が江戸時代の文献で後円部にあることが分かっている、明治5年に前方部より石室と石棺が見つかる。

## 竜佐山古墳（たつさやま） ※世界遺産

全長67mの前方部が短い西向き帆立貝形の前方後円墳。

## 銅亀山古墳 ※世界遺産

直径約26m、高さ約5mの方墳、百舌鳥古墳群では珍しい。古墳の形が南北に長い長方形で2段造りの亀に似ているから。戦争中には高射砲が設置された。

## 樋の谷古墳

仁徳天皇陵古墳の三重濠の西側面のほぼ中央の濠が膨れた部分にある径約47m、高さ約2mの円墳である。古墳は、濠を渡摸したときの盛土ともいわれている。濠の水が流れ出す所に近いので、「樋の谷」と名付けられたようである。

## 丸保山古墳 ※世界遺産

仁徳天皇陵古墳後円部の西側にある墳丘全長約87m、後円部径約60m、高さ約9m、前方部幅約40m、高さ約2mの前方部が南を向く帆立貝形前方後円墳で、幅約10mの壕がある後円部は宮内庁が仁徳天皇陵古墳の陪家として管理している。前方部は最近まで民家と耕作地があったので、平坦にされている。前方部と周濠は1972年（昭和47年）国指定で堺市が管理。

## 菰山塚古墳（こもやまづかこふん） ※世界遺産—宮内庁ほ号飛地—南丸保園49他

現在は住宅に取り囲まれた円墳状の墳丘が残るのみで旧状をとどめませんが、もとは墳丘全長33メートル、高さ4メートルの前方部が南を向く小規模な帆立貝形の前方後円墳でした

## 永山古墳 ※世界遺産

仁徳天皇陵古墳の北西約50mにある前方部を南に向けた前方後円墳である。墳丘の全長は約100m、後円部径約63m、高さ約10m、前方部幅約68m、高さ約10mで、西側のくびれ部にはつくり出しが認められる。墳丘は3段に築かれていて、葺石と埴輪があり、現在一重の盾形の周濠が巡っている。墳丘は宮内庁が陪家として管理しているが、独立した前方後円墳とみられる。

王仁（わに）や日本武尊（やまとたけるのみこと）の墓とする伝承がありました。